

競技注意事項

- 1 本大会は、2026年(公財)日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項ならびに申し合わせ事項により実施する。
- 2 練習については公開練習要領を参照の上、指定区域内で行うこと。その他審判員・競技役員の指示に従うこと。
- 3 競技者の招集について

- (1) 招集場所は旧末広中(第3コーナーのゲート横)に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、原則下記の通りとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	20分前	棒 高 跳	70分前	60分前
フィールド競技	40分前	30分前	円盤投	50分前	40分前

詳細は競技日程をよく確認すること。

- (3) 招集方法

ア 招集開始時刻より点呼を始める。出場種目の招集開始時刻までに招集所に集合すること。

あ 招集完了時刻には各競技場所への移動を開始する。

イ 招集所での点呼に不在だった競技者については、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

ウ 競技者係に備えているものは、次の通りとする。

	提出書類	提出先	提出時間
1	欠場届	競技者係	招集開始10分前まで
2	多種目同時出場届		第1種目の招集開始10分前まで

エ 代理人による招集の最終確認は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、該当競技の最初の種目の招集開始10分前までに多種目同時出場届に必要な事項を記入し、競技者係に提出すること。

※その際、第1種目の招集・点呼は必ず受けること。

- 4 トラック・フィールドへの入退場について

- (1) トラック・フィールドへの入場は、係員の誘導に従い規律ある行動をすること。
競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) フィールド競技終了後の退場については、当該競技役員・マーシャルの指示に従うこと。
- (3) トラック・フィールド内には、映像機器やミュージックプレイヤー、またスマートフォン等の通信機器を持ち込むことは出来ない。また、練習器具も持ち込むことは出来ない。

- 5 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。
(原則1枚につき、4ヵ所を止める)ただし、跳躍競技については胸・背のいずれかでよい。
- (2) トラック競技出場者は腰ナンバーを持参すること。
- (3) 腰ナンバーはパンツ右側後方に番号が見えるように付けること(パンツ下部だと番号の確認がしにくい)。
- (4) 長距離種目のレーンゼッケンと10レーン以降の腰ナンバーは、点呼時に招集所で競技者係から受け取る。
- (5) 長距離種目のレーンゼッケンと10レーン以降の腰ナンバーは、フィニッシュ地点で取り外してトレイに返却すること。

- 6 走路順・競技順について

- (1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載通りとする。
- (2) トラック競技の決勝の組み合わせ及び走路順は、番組編成員により決定する。

- 7 同タイムでのプラス進出者確定について

タイムによる次のラウンドに進む競技者の決定について、最終枠に同記録があるときの処置は、写真判定主任が0.001秒単位の時間を判定して競技者を判定する。【TR21.5】

ただし、同成績(0.001秒単位まで同じ)となった場合は以下のとおりとする。

(ア) 空きレーンがある場合は対象者全員が次のラウンドへ進出する。

(イ) 空きレーンがない場合は同成績者または代理人によって抽選する。アナウンス後15分を経過しても当該競技者あるいは代理人が来なかった場合は、主催者が代行する。

- 8 表彰は行わない。選手受付の隣で賞状係に「地区陸協」・「種目」・「氏名」を申し出て賞状等を受け取ること。
- 9 当該競技の選手以外は競技場内に入れない。荷物持ちの場合はスタート待機場所の外から受け取る。フィニッシュ地点での荷物の受け渡しは行わない。
- 10 トラック・フィールド競技ともに、終了後はバックストレート側を通り、スタート地点または所属テントに戻ることに。
ホームストレート側を通行することはできない。

11 競技について

- (1) 事故防止のため短距離競技のフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走り安全に減速すること。
- (2) TR5.2に違反するシューズでの出場は認めない。
- (3) **スパイクシューズ以外で走る場合は、予め競技者係に申し出て測定を受けること**(砲丸投・円盤投を除く)。
- (4) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアから助言を与える場合はマーシャルか該当種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。
- (5) 警告及び失格についてはTR7を適用する。

12 フィールド競技

- (1) 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従う。
- (2) 競技者は審判員の許可を得ることなく、勝手に競技場所を離れることはできない。【TR25.19】
※トラック競技の出発審判員、フィールド競技の審判主任に必ず申し出て、審判員の指示のもと移動すること。
- (3) トラック競技と重複している場合、審判の判断で試技順を変更することができる。
- (4) フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチングエリア」を設ける。競技者に対してビデオ等の映像を見せることや画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画再生機器を手にしても良い【TR6.4.5】。
- (5) コーチングエリア外からの指示や助言を行うことは一切できない。
- (6) 審判長が認めた場合、帽子、靴、衣類、水、氷など該当審判員を通して渡すことができる。【TR6.4.6】
- (7) 競技開始後1時間30分を経過しても試技を行っていない者については、1時間30分経過後、新たに上げられたバーの高度で助走練習を行うことができる。
- (8) 三段跳について、踏切板は砂場から、男子11m、女子9m地点に設置する。
- (9) ジャベリックスロー/円盤投/砲丸投においては、計測ラインを設ける。
ジャベリックスロー： 男子 42m00、女子 28m00 未満は、計測しない
円盤投： 男子25m00、女子18m00 未満は、計測しない
砲丸投： 男子・女子10m00 1年男子7m00 未満は、計測しない
- (10) 砲丸投で回転投法の競技者は投擲審判員に申し出ること。
- (11) 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用すること。
- (12) 棒高跳のポールは、指定された場所に置くことができる(前日練習から可)。
- (13) マーカー・マークテープは主催者側で用意する。

13 バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	バーの高さ設定
男子走高跳	1m55	1m60～1m70まで5cmきざみ 1m70～1m88まで3cmきざみ 1m88以降2cmきざみ
女子走高跳	1m35	1m40～1m45まで5cmきざみ 1m45～1m60まで3cmきざみ 1m60以降2cmきざみ
男子棒高跳	2m90	3m00～3m60まで20cmきざみ 3m60～4m10まで10cmきざみ 4m10以降5cmきざみ
	3m40	
	3m90	
女子棒高跳	1m90	2m00～3m00まで10cmきざみ 3m00以降5cmきざみ
	2m40	
	2m90	

14 抗議と上訴について(TR8)

- (1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、各監督(又は代理人)により、その種目から30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内)に、審判長に対して口頭でなされなければならない。抗議者は担当総務員に申し出ること。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、各監督より結果が正式発表されてから「上訴申立書」と「預託金20,000円」を担当総務員を通して Jury に提出をしなければならない。なお、「上訴申立書」の提出時刻は、その種目の結果が変更されていない場合は正式発表から30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内)に、または、その種目の結果が変更された場合は抗議者に対して、その旨が通告されてから30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内)とする。

15 撮影・競技場について

- (1) 会場内では、携帯電話(スマートフォン)とタブレット端末のみ撮影可能とする。ビデオカメラ、デジタルカメラ一眼レフカメラでの撮影は不可とする。三脚や自撮棒を用いた撮影、通路を塞いでの撮影は行わないこと。
- (2) 撮影禁止エリアについては、下記図を参照の上、場内表示及び役員の案内に従うこと。ただし、フィールド競技において、コーチングボックス内での指導のために、対象の選手をコーチングボックス後方から撮影することのみ認められる。
- (3) 選手のプライバシー保護および肖像権配慮のため、他の選手や観客の顔が識別できる動画・写真について SNS や Web サイトへの無断転載・配信は固く禁止する。
- (4) 競技場内のテント設営はバックスタントおよびサイドスタンドとする。第4コーナー付近の階段を上った先の芝生も設営可とする。
- (5) 競技場内のテントエリアに限って前日からテントは置いてよいが、主催者は一切の責任を負わない。風に飛ばされないようにすること。
- (6) 大型のバケツを用いてのアイシングは、他の競技者・一般利用者の迷惑となるため、使用しないこと。
- (7) トイレでの更衣は混雑の原因となるため、必ず更衣室を使用すること。
- (8) 野生動物(特にカラス)への対策として、バッグ等のチャックは必ず閉めること。
- (9) 競技の妨げになるような過度な大声や、選手・審判への暴言・誹謗中傷は固く禁止する。



- ※1 トラック種目: スタート動作の前方と後方、フィニッシュ地点正面からの撮影は禁止
- ※2 跳躍種目: マットや砂場の正面、助走後方からの撮影は禁止
- ※3 投擲種目: 競技者正面、助走後方からの撮影は禁止